

あきる野市 平成23年(2011)2月28日 第18号

# 町・自連会報

発行/平成23年2月28日 発行者/南 征夫 編集/あきる野市町内会・自治会連合会会報部会

### プリティッシュタウン・自治会の発足

自治会長 得能 千春  
プリティッシュタウンは、平成一八年から建築され、平成一九年には、タウン内警備を管理する管理会を設立し、平成二二年四月全二六四世帯が、入居しました。

そこで、自治会を望む声が多くなり、アンケートを取りました。アンケートには、メリット・デメリットを教えてほしい、具体的な事業計画を立ててほしい、負担が多くなるなら反対など、色々な意見ができました。管理会は、その意見に応え、「負担の少ない、出来る人が、出来るときに、出来ること」をしたら良いのではないかと訴えたところ承認され、平成二二年七月二五日、管理会から自治会に移行して、自治会が発足しました。

発足後、会則を作り、敬老会、防災訓練などの行事を行いました。安全で楽しい町づくりを目指し、活動したいと思えますので、御指導のほど宜しくお願い致します。

### 都知事表彰を受賞

当連合会は、二月二日国勢調査功勞の都知事表彰を受けました。これは調査員総数の七割以上を町内会・自治会が推薦し、調査に多大な貢献をしたことに対し贈られたものです。

### 新加入・新役員の紹介(敬称略)

- 一、連合会加入  
プリティッシュタウン自治会  
平成二二年一〇月一日
- 二、新任  
油平本町町内会長 山本紀一  
平成二二年二月一九日
- 三、新任  
連合会理事・加入促進部会  
堀江啓司(湖上町内会)  
平成二二年一二月一九日

### 計報

矢治重男氏(油平本町町内会長・連合会理事・加入促進部会)に於かれましては平成二二年一二月六日に御逝去されました。御生前の御尽力に心から御礼を申し上げますとともに御冥福をお祈り申し上げます。

### 「インターバル速歩」講演会の開催

一月二九日 当連合会主催の標記催物を五日市会館で五日市・戸倉・小宮地区を対象に開催した。講師の信州大学宮川健先生から、速歩きのポイント・踵から着く・目線の位置・腕の振り方などを学びました。他地区も二月中に順次実施します。

### 役員会、全体会の連絡協議報告事項

- 平成二二年
- 八月八日(役員会)
    - 視察研修会の計画
    - 地域の底力再生事業助成
    - 各部会の活動報告
    - スボレクのアンケート
  - 九月一五日(役員会)
    - △市民アンケート結果
    - △個人情報保護制度説明会
    - △防犯ベストの依頼状況
    - スボレク
    - 視察研修
    - 各部会の活動報告
    - 一〇月二三日(全体会)
      - △地域懇談会
      - △産業祭ポスターの掲示
      - △総合防災訓練
  - 十一月二四日(役員会)
    - △市からの連絡事項
    - 各地区からの報告事項
    - 日帰り視察研修
    - 新年会
    - 各部会の活動報告
    - 日帰り視察研修
    - 新年会
    - 加入促進事業
  - 一月七日(役員会)
    - 日帰り視察研修
    - 新年会
    - 加入促進事業



講習の実技の網

### 編集後記

会報第一八号をお届けします。多忙な年末から年始に執筆・編集頂いた方々に御礼申し上げます。例年より一ヵ月早い発行は、前号を一ヵ月繰り上げたことと年度末の会計締めを考慮したことによります。

第一面は、会長と加入促進部会長からの話題を、第二面に地域活性化に果敢に取組んでいる深沢自治会の紹介、第二から三面に各地の特徴的な防災訓練と連合会の視察研修を、第四面で昨年一〇月に連合会八一番目の団体として加入のプリティッシュタウン自治会の紹介と連合会の動きを記した。

観てもらえる紙面に挑戦しています。良きアドバスを、会報部会員にお知らせください。(会報部会長 小峰 秀夫)

○会報部会の報告  
☆一月二四日(新年会)  
ルビアホール  
(注)△印は、市からの連絡事項  
○印は、連合会の協議報告事項  
(会報部会 中村 裕)

### 御挨拶



あきる野市町内会・自治会連合会  
会長 南 征夫

昨年の夏は、大変な異常気象で、過去一三三年の観測史上で最高の暑さであったそうです。春・夏・秋・冬いずれの季節にも夫々情緒があり、その季節に相応した行事や祭事が催されて、歴史が刻まれてきたわけです。

「協働のまちづくり」を合言葉に出発させて頂きました。が、就任当初に述べましたように防災・防犯・福祉・環境等幅広い課題を抱えております。一年を振り返り一番頭の痛いことは、町内会・自治会の加入率が低いことです。

少子高齢化社会で担い手が少なくなり、次世代にどのように登場してもらおうか特効薬は見当りませんが、連合会では加入促進部会を作り、辛抱強く加入促進活動が続けていくこととします。

### いきいき活動と楽しい健康づくり

加入促進部会長 中村 勇

私たちが生活を営むには、一説によりますと約二百万人の人たちの直接間接の手助けを受けて生活を支えてもらっていると言われます。

町内会・自治会は、普段の活動が重要と考えています。

暮らしやすい地域を目指すには希薄化になりつつある地域、かつては地域社会は「向こう三軒両隣近所あつての生活」でした。少子化・核家族化・生活様式の多様化等、住民意識の変化など地域とのつながり結びつきの変化により「隣の人は何する人ぞ」など社会の風潮もあり、町内会・自治会は地域に住む人々がよりよい環境のもとで気軽に付き合ひ、充実した生活ができるように自主的かつ自発的に協働活動を行なっております。

まちづくりを進めていくには安全・安心で住み良さを実感できる地域づくりを目指して様々な生活の充実、伝統行事の推進、環境の美化、交通

地域の皆様への積極的な働きかけや、魅力ある事業の展開を図りたいと考えています。皆さんと連携しながら加入促進に取り組んで参りたいと考えております。

安全その他広報活動などユニティの構築を図らなければならぬと考えます。明日につながる快適で安全・安心の地域づくりは支え触れ合い、郷土・まちに愛着をもち元一杯の地域づくりという観点から、健康に関する意識の高揚や体力を高める活動として「インターバル速歩」の講演会を受講していただき体験、実践し心身とも健康で楽しく暮らせる生活ができましたら一番の幸せと思います。

この運動を通して誰もがふれあいそこに「ユニティ意識」が芽生え共通の理解ができ、地域づくりと安全・安心な社会が構築されるのではないかと考えます。この企画を健康づくりの地域B級グルメ化を目指したいと考えています。

地域の皆様への積極的な働きかけや、魅力ある事業の展開を図りたいと考えています。皆さんと連携しながら加入促進に取り組んで参りたいと考えております。



増戸地区防災の集い

盤作りが進む中、地域の連携強化と防災意識の高揚を図るため実施したもので二八〇名が参加した。

集いに、二度の震災を経験した新潟県柏崎市北鯖石コミュニティ振興協議会の間島主事さんに被災体験に基づいた災害に対する心構え等について御講演頂きました。大変参考になる貴重なお話でした。

この集いに合わせ防災標語を募集し地域のご協力のもと、小学生の部一二点、一般の部四三点の応募を頂きました。初めての「防災の集い」は「地域の連携」、「防災意識の高揚」に役立つ集いであった。最後に防災標語の入選作品を紹介し報告と致します。

☆小学生の部  
災害時 家族と確認 ひなん場所  
災害は 人ごとでなく自分ごと

☆一般の部  
日頃の連携地域の和

昨年一月の市総合防災訓練の折、小宮地区は、避難訓練を実施、小学校に各自自治会毎集合し手際よく消防団が消火器使用の実演指導を行い、その後体育館に会場を移し、講演に入った。講師は日本防災士会常任幹事の橋本茂氏が行った。防災士とは、社会の様々な場で減災と防災力向上のための活動が期待され、かつ、十分な防災意識、知識、技能を有するものとして、NPO法人日本防災士機構が認定した人たちが現在全国で四万人を超えている。誕生は阪神淡路大震災がきっかけである。巨大災害による被害は行政の初期対応能力をはるかに超え、生命財産は損なわれ、消防、自衛隊等の公的支援は活動開始迄に時間を要することが確認された。各地で瓦礫に埋もれた命を救ったのは隣近所の民間共助の力であった。さて、私達の生活圏には、五日市・立川・青梅断層があり、何時マグニチュード五から六があってもおかしくない。

これ迄の各地の災害は、まさかであり、この地域に限っての考えが支配している。何時何処でもあり得るとし備えることが大事である。公表されているハザードマップを確認しておくことも重要な点である。グラツときたら先ず我が身の安全確保(自助)次に火の始末、脱出口の確保である。身の安全が確保できれば人を助ける力となる(共助)自らの行動指針である。被害の最少化、身の安全確保に家の耐震強化は絶対条件であるが高額で簡単なことではない。簡易な対策は家具等の固定である。阪神大震災の犠牲者の八〇%が圧死であったことから大事なポイントである。日本の国土に不可避の大災害に備え、地域環境を把握し、土砂災害、道路の寸断による孤立化等をシミュレーションし、訓練を繰り返す、隣近所の絆を深めておくことこそ地域防災力そのものである。

あきる野市町内会・自治会連合会の各会長の視察研修会が一月一六日及び一七日に開催され五四名が参加致しました。視察研修先は長野県国交省天竜川上流河川事務所砂防センター・森と水のアウトドア体験広場で木曾駒ヶ岳を水源とする太田切川の砂防と河床堰について事務所長による説明を受けました。

この川は高低差が厳しく水が出るると土砂災害の危険度が高く、岩石の落下も大きく川底の浸食が激しい川でしたが、堤防、河床管理に工夫されているのが、良く理解出来ました。

時間雨量一〇ミリメートルから一八〇ミリメートルまで視界がどのように変化するかを知ることが出来る降雨体験車「あめ太郎」は、当日朝方の冷え込みで氷着し、体験出来なかつたことが残念でした。研修を通してお互いに町内会・自治会長としての、やりがいや、苦労している事などいろいろと話し合い懇親を深



砂防センター



参加者

### 「地域防災力の向上」

#### 小宮地区講演会の抜粋

小宮地区防災・安心地域委員会 浦野 修

### 天竜川上流砂防センター他を視察研修

視察研修会幹事長 大塚 強

あきる野市町内会・自治会連合会の各会長の視察研修会が一月一六日及び一七日に開催され五四名が参加致しました。視察研修先は長野県国交省天竜川上流河川事務所砂防センター・森と水のアウトドア体験広場で木曾駒ヶ岳を水源とする太田切川の砂防と河床堰について事務所長による説明を受けました。

### 「郷土の恵みの森づくり」

#### 深沢地区の取り組み

深沢自治会長 志村 義久

深沢自治会は五日市駅北側の深沢川と支流の南沢沿いに三二戸が点在する地区です。五日市憲法で知られる「深沢家屋敷跡」をはじめ「鳥の巣石炭産地」「深沢小さな美術館」「大カシ」「南沢あじさい山」などの名所があります。緑と水と四季の花や紅葉の楽しめる所になるように「郷土の恵みの森づくり」事業を始めました。

五月八日には「郷土の恵みの森づくり」オープニングイベントとしてJR東日本八王子支社「沿線からの森づくり」を行い、青空のもと一八〇名の参加者が三五〇本のシャクナゲを植えました。

現在の事業を進めています。深沢川周辺の道路わきに植栽してあるアジサイ、シャクナゲ等の花木類の維持管理を行う「深沢川周辺景観整備事業」。南沢周辺の花木類の植栽や維持管理を行う「南沢地区景観整備事業」。深沢川地区と南沢地区をつなぐ散策路である尾根道を整備する



「沿線からの森づくり」参加者

「大カシ・堀田尾根道路整備事業」です。自治会有志で結成した「花の会」を中心に森林レンジャーなどの助けを得てこれらの事業を行っています。

なお、深沢は山間地で道路が狭く、観光客の増えることでの交通事故、駐車場の問題や公衆トイレなどの心配事があります。

「郷土の恵みの森づくり」事業は、住民が楽しみながら進める住民のための事業であることを望みます。

### 野辺町内会の防災訓練

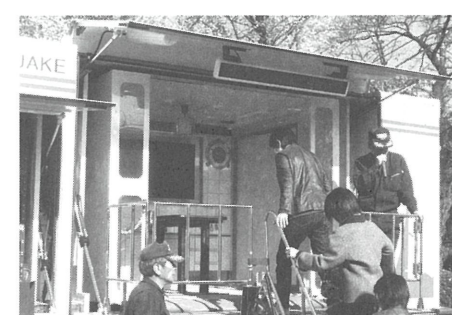
野辺町内会長 野島 茂



野辺町内会の集い

去る一月二八日、野辺町内会では、住民を対象とした防災訓練を実施した。訓練は、午前八時三〇分に東京地方を震源としたマグニチュード七の大規模な地震が発生したとの想定で開始されました。訓練は以下のとおり実施しました。

市の指定避難場所である東小学校・前田小学校の二か所に分かれて、午前九時までに避難する訓練を行い、その後、防災委員・交通安全協力会・担当役員の指導、誘導により八雲神社へ場所を移し、出席者全員が各訓練を体験した。消防団による放水演習から



起震車による疑似体験

### 増戸地区総合防災訓練

増戸地区防災・安心地域委員会委員長 大久保 春彦

増戸地区総合防災訓練は、市指定避難場所増戸小学校までの「避難訓練」と「防災の集い」を実施した。

防災無線のサイレンを合図に自宅での身体防護と出火防止訓練の後、指定一時集合場所に避難し全世帯の安否と被害状況を確認した。途中の被害状況も確認しながら増戸小

学校校庭に避難し、自主防災組織毎に安否・被害状況を本部に報告し、後に訓練報告会を実施した。増戸は、東西の広範囲に分散しているが六六三名が参集した。

訓練報告会の後、増戸中学校体育館で、「防災の集い」を開催した。防災・安心地域委員会発足三年目に入り、基